

意味を考えることの大切さ

木下 祥一（筑波大学大学院／社会科教育学）

ペイ・フォワード

(原題：Pay It Forward)

- ◆ 種別：DVD（映画）
- ◆ 監督：ミミ・レダー
- ◆ 製作年：2000年
- ◆ 製作国：アメリカ合衆国
- ◆ 発売／販売元：ワーナー・ホーム・ビデオ
- ◆ 販売価格：1,500円（税込）
- ◆ 時間：本編124分・映像特典13分＋音声特典
- ◆ 音声：英語／日本語
- ◆ 字幕：日本語



あらすじ

11歳の少年トレバーは社会科の授業で担任のシモネットからある課題を出される。それは一年間をかけて行う「世界を変えるための方法を考え、それを実行してみよう！」というものだった。トレバーは悩んだ末にあるアイデアを思いつく。それは“ペイ・フォワード／次へ渡せ”。他人から受けた恩をその人に返すのではなく、別の人へ贈るというものであった。そして、このアイデアはトレバーの知らないところで広がっていき、多くの人々を救っていく。

シーン再現

<チャプター3：シモネットの最初の授業の場面で、課題の難しさに戸惑う子どもたち。そんな子どもたちにシモネットが言葉を投げかける>

シモネット：ムリ…、難しい…。では、これは？
“可能”。これは可能だ。
“可能の王国”は一体…どこに存在する？それは君たちの…。
（自分の頭を指さし）ここだ。

Chapter	
1. 善意の行い／4'33	2. 「シモネットだ」／3'01
3. 「ではこれは？ “可能”／4'43	4. クレジット 2'45
5. 夕食の客／2'53	6. ガレージの秘密／3'48
7. 「あの子を知らない」／4'51	8. ソーセンの話／3'06
9. ジェリーの助け／3'14	10. トレバーのアイデア／3'25
11. 貧乏くじ／1'49	12. 次の相手／2'16
13. 二人の食事／3'51	14. 親しく話を／2'02
15. ウソつき／2'48	16. 家出と発見／5'00
17. 考えついたのは誰？／1'34	18. デートと取引／0'55
19. 「尊敬してるわ！」／3'42	20. シドニーの話／2'38
21. 泊まっていかない／3'52	22. 気持ちを打ち明けたのに／3'44
23. 誰かがいれば／3'33	24. お泊り／5'24
25. 俺を救うために／3'07	26. それぞれの家／2'59
27. 父親と息子／3'28	28. 選択ミス／5'19
29. トレバーの強い願い／2'20	30. 許し／4'36
31. 勇気をもって／4'49	32. 悲劇／5'24
33. 祈りの灯火／3'52	34. エンドロール／3'31



この映画見た多くの人は、トレバーのアイデアによって人々が互いの善意を信じ、その善意が広がっていったことに注目するだろう（トレバーのアイデアについては **Information** 参照）。この映画は、「人と人とのつながり」や「共助」について考えさせられる作品であり、これらを考えさせる映画として教育に活用することもできると考える。だが、ここではシモネット

の授業に注目し、「学び」と「教育」について考察を行いたい。

シモネットは新年度初めての授業で、自身が担当する社会科で学ぶことを「君たちと世界について」と表現した。また、「君たちにとって世界とは何を指す？」「世界は君に何を期待している？」と子どもに問いかけた。そして、子どもに世界との関係、自分にできることを考えさせるために「世界を変える」という課題を課した。これらは、社会科の意味、さらに学んだことが自分にどう関わるか等を考えさせる言葉である。また、授業中にあえて難しい言葉を使い、子どもに意味を調べさせたり、子どもの発言の意味を問い、常に子どもに問いかけたりもしている。こうしたシモネットの授業に対する姿勢は子どもに考えること、そして意味を求めることを常に要求した。

学校教育は受験に対応するために、用意された答えを学ぶ教育を行っているという現実がある。受験のために膨大な知識を効率よく覚えるために、学ぶことにどんな意味があるのか、学んだ自分は世界に対してどんな意味を持てるのか等を考える機会は中々用意されていない。時には、学んだ事柄の意味すら知らずに覚えているということもある。また、教育に携わる者はどれだけ教育の意味を考えているだろうか。

シモネットの常に子どもに考えさせようとする授業は、学ぶ意味を見いだせない子どもや、用意された答えばかりを学び自ら考える機会の少ない子どもを救うためには重要なことであると感じた。教育には意味や答えを教師が子どもに与えるだけでなく、子どもが意味や答えを追求することを教師が手助けすることも必要であろう。

このような視点から、この映画を見たとき、教師にとっては教育の意味や授業に対する姿勢について、子どもにとっては様々な事柄（学ぶこと、自分自身、自分と世界との関わりなど）について考えること、意味を求めることの大切さを学ぶことのできる可能性をこの映画は持っていると感じた。

Information

「ベイ・フォワード」という題名は、劇中で主人公トレバーが世界を変えるために考え出したアイデアである。一人が三人を助け、助けてもらった人は恩を返すのではなく、それぞれが別の三人を助け、善意が広がっていくことで、世界が変わるとトレバーは考えた。

【書籍】この映画の原作本： Catherine Ryan Hyde, *Pay it Forward*, Black Swan, 2007

世界を変えるという課題。それは自分と世界について考える機会。